

## 生理検査

### 脳・神経検査

#### 脳波検査

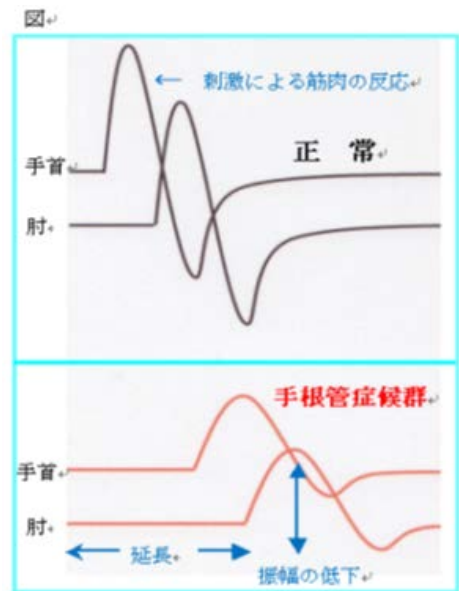
頭皮上に電極を付け、脳の電氣的活動を電氣信号の変化として記録します。けいれんを起こした時、意識障害がみられる時、てんかんが疑われる時などに行われ、脳腫瘍などの診断にも有用です。脳死判定の際にも用いられています。乳幼児は睡眠導入剤などを飲んでいただき、睡眠状態で検査します。

#### 誘発筋電図

「手足に力が入らない、しびれがある」等の症状がある時に行う検査です。手足を動かす神経を弱い電気で刺激し、この時筋肉に発生する電氣信号を波形に変えて評価します。電気で刺激するため、個人差はありますが痛みや不快感を伴うことがあります。

図は、正常者と手根管症候群(手首の障害により、手先のしびれが出現)の方の結果を比較したものです。正常者に比べ、手根管症候群の方の波形は神経の伝達が延長すると共に、波形の振幅が低下しています。

このように、障害の程度や障害部位を客観的に評価することができます。



#### 針筋電図

専門医が行います。四肢の筋萎縮や筋力の低下がある場合に行い、それが筋自体に原因があるのかを判定するために用いられます。筋肉に直接針を刺すため痛みを伴います。

#### 体性感覚誘発電位 (SEP)

上下肢の感覚神経に電氣刺激を与えることによって誘発される電位です。

#### 聴性脳幹反応 (ABR)

耳から脳の聴覚中枢までの神経の伝わりを調べます。

#### 新生児対象の聴性脳幹反応 (AABR)

先天性難聴の発見のために行われます。

#### 視覚誘発電位 (VEP)

目から脳の視覚神経までの神経の伝わりを調べます。